



三衣一鉢

薪流会総裁 東海大玄老大師



「こんにちは、こんにちは、西のくから、云々、こんにちは、こんにちは、さくらの国で、」
三波春夫さんが朗らかに、その艶のある声を響かせた一九七〇年の大阪万博のとき不肖は高校二年生でした。夏休み中の丸一か月、その万博会場でアルバイトをしました。地場企業の製薬会社が副業で、会場の食堂街に新店していた中華レストランでの皿洗いです。
七十年万博の熱気は凄まじく、特に昼時のレストランはごった返していました。調理場が間に合わず、皿洗いのバイトも駆り出されて、あの大きな中華鍋を振るったものです。お断りしておきますが、何しろ半世紀以上前のことです。記憶違い・間違った思い込みがあります。御容赦下さい。
レストランには時々、近くのパビリオンのコンパニオンさん達が合間を縫って食事にみえていました。そんな時は、スープを付けたら、サラダを御負けしたりと、僅かながらサービスを心掛けました。お陰で、月の石も並ばずに見ることが出来ました。

本 部

〒616-8035
京都市右京区花園妙心寺町53
養徳院内 横江 桃國

発行・編集

〒509-0301
岐阜県加茂郡川辺町下麻生1998
大雄寺内 大野 祥雲

薪流会ホームページ

<http://www.shinryukai.jp/>

印 刷

〒505-0021
岐阜県美濃加茂市森山町1-1-34
有限会社 永田印刷

目 次

「三衣一鉢」	薪流会総裁 東海大玄老大師	1
「Chat GPTに聞きました」	祥光寺 向 令孝	2
「久松真一先生を訪ねて」	薪流会 宮田 裕司	4
「ただ 生きる」	正法寺 栗原 正雄	8
「生きねばなんね」	専修寺 岸野 亮哉	10
「チャリス村からのお礼状」	薪流会 古レンビルバド	14
「薪流会支援活動に参加して」	庚申寺 仲山 裕紀	16
活動報告		18
能登義援金		21
托鉢報告		22
決算報告		23
総会報告・色紙案内		24

その時、少年心に痛感しました。人は、先ずは食えることだな、と。

古代インドでは、僧は三衣一鉢、これ以上の所有が許されませんでした。然も使い捨てられた布を柿渋色に染めた袈裟であり、食事は、正午を過ぎてからは非時食で禁じられていました。

無論、仏教伝来の経緯と、長い歳月を積み重ねてきての現状があります。その中で、本会有志の皆さんが率先して、被災地での炊き出し、又、托鉢を通じて利他行を実践されてきていることを法幸に存じ上げます。

スープ一品のサービス精神と一鉢非食の戒心を務めたいものです。

現在開催中の万博では、進化した「人間洗濯機」が話題だそうです。七十年の時、水着姿のモデルさんがカプセルの中で「自動洗浄泡シャワー」を浴びていました。今回は着衣のまま洗濯されるそうです。

将来、身体のみならず、背広もドレスも下着も、そして心までも洗浄されるようになるのでしょうか。

担えます。

・瞑想やマインドフルネスとの橋渡し。外国人観光客やリトリートの受け入れ。

五「死」と「生」の境界に寄り添う場として

高齢社会が進む中で、死と向き合うこと、人生をどう締めくめるかの「死生観」はますます重要です。

・看取りやグリーフケア（遺族支援）の拠点。生きる意味を問い直す「死から学ぶ場」。

結論…

禅寺は「現代社会のコンパス」になり得る

禅は押し付けず静かに、しかし確かに人の心に影響を与えるものです。これからの社会に必要なものは、外の情報ではなく「内なる静けさ」と「つながり」を取り戻すこと。

その案内役として、禅寺は非常に貴重な存在です。

私の活動報告 坐禅会

一、毎週水曜日、朝六時から坐禅会をやっている。時十数人参加しています。

坐禅会では皆フランクに交流するよう「ちゃん、さん」づけで呼びあいます。座禅読経の後のコーヒータ임はプロのバリスタが豆から挽いてくれたのを飲みながら和気あいあいと話し合うので、私と家内にとっても楽しい一時となっています。

二、友人の A 氏の運営するオンラインサンガ（約二千人）で、毎週月・火曜日、朝五時半から坐禅読経と、毎月曜日晚八時に法話のライブ配信をやっています。

三、ドイツ人弟子の H 氏が主催する

ブーヘンベルク

「大心禅道場」

<https://zen-kloster.de/>

に毎年秋に、約一ヶ月滞在して指導をしています。といっても数回法話をするぐらいですが。



南ドイツ・ブーヘンベルク大心禅道場にて

久松真一先生を訪ねて

薪流会 会員

宮田 裕司

「久松真一は明治二十二年（一八八九年）六月五日、岐阜県長良に生まれた「覚の哲学者」である。実父の大野定吉は八白庵はっぱくあん椿翁ちんおうと号する茶人で、久松は幼少の頃からその強い影響を受けた。第三高等学校二年生の折、実父とともに設計し建てた囲茶室付き書院が、現在も岐阜の実家に遺っている。

久松は昭和三十七年（一九六二年）五月、京都室町中立売下ルに転居した後、昭和四十九年五月、岐阜市長良に帰郷するが、その晩年に至るまで茶道を徹底的に行じた生活であつた。」

これは、お弟子さんの一人である藤吉慈海氏が『茶道の哲学』（講談社学術文庫）の解説に書かれた先生の紹介である。

また、薪流会初代総裁の大井際断老師は『真人 久松真一』（春秋社）に次のように寄稿されている。

「久松真一先生は、われわれの大学の恩師でありまして、宗教学或いは仏教学を教えて頂いた崇敬措く能わざる立派な先生であつたのであります。よく世間では、良く修行のできた坊さんを生き仏だと、あの老師は生き仏だと、こう言う人がありますが、久松先生こそ生き仏、あるいは生き仏以上の

人柄であつた。こういうように深く信じておるのであります。」

私が久松真一先生に出会ったのは、大学受験生の頃。当時、真実を言葉で表現する「西洋哲学に惹かれながらも、果たして言語で表現しきれぬのだろうか」という疑問が湧いていた。そんな時、本屋で立ち読みをしながら手に取った久松先生の著作（これが定かでない）に「真実を掴むために言語で表現しえないところを禅はすつ飛ば（そのような主旨）」を見つけた時である。

それから禅に興味を湧き、禅に関する本の巻末にあつた座禅の出来る寺一覧に竜安寺にある大珠院が目にとまった。竜安寺は、小学生の時の大阪万博（太陽の塔がシンボル）に合わせて家族旅行で訪ねて強く印象に残っていた。近くの仁和寺の宿坊に宿泊してお訪ねすると隠寮に通される。そこに座られていた住職（盛永宗興老師）に大きな目玉でギョロリと睨まれて「何しに来た」と問われた。

フリーダイヤル 0120-86-2779

仏壇・位牌・寺院用具・仏教美術品

ぬしや仏具店



浜松市浜北区貴布祢 504-7 www.nushiya.net

ぬしや工房

お仏壇・ご本尊・仏具・家具調度品の塗替え、修復
お見積り無料 ご一報ください

いきなりの大きな声に驚きながら経緯をお話すると、「荷物を持ってこちらに來なさい」と言われて宿から荷物を移し、それから長くお世話になることになる。お爺さんでもないのに皆がなぜ老師と呼ぶのか不思議に思っていたくらいのも知らない青年であった。その後、横江令澄和尚が養徳院に入られる折に大珠院から加担に伺ったことで養徳院に暫く住まわせて戴き有難いことに現在までご縁が続いている。

話が少々逸れてしまったが、当時は久松先生が同山内の春光院に寓居されていた時期から二十年後くらいであったので、先生と交流のあった方々からまだ色褪せていない昔話を耳にすることもあった。

その後三十歳で水戸に戻り家業を継ぎ、友人からの誘いで水戸に伝わる石州流茶道を始めたが、「茶の湯とは何か」と疑問に思ったときに手にしたのが久松先生の『茶道の哲学』であった。非常に難解

で私は二十回以上は読んでいるが、理解出来ている（しているつもり）のは半分に満たないように思われる。しかし、読むたびに毎回腑に落ちるところがあり座右から離すことが出来ない。私淑してきた久松先生の著作に節目節目で道筋を示していただいてきたことになる。

「そもそも宗教は、人間に最も深い絶対の慰安を与えるものではありますが、茶道もまた本来は宗教的な深い慰安を与えるものなのであります。その深い慰安というものがこの茶道と密接な関係を持っているのであります。茶道の中には禅というものが非常に密接な関係をもつて入っているのであります、茶道はその禅というものを、

禅宗の寺院の中におかないで一般庶民の家庭の中にもちこんで、それによって庶民の高い文化生活を形成したのであります。これは非常に面白いといえますか、意義深いといえますか、今日でもはなはだ示唆的な事柄であると思うので

あります。

いわゆる茶席といえますかあるいは露地といえますか、とにかく露地草庵といったような一つの茶道の環境ですが、茶ではこういう露地にはいりましてそれから茶席に入りますが、そういうところは、これは寺でも何でもありません。ごく狭いお粗末な住居で、寺院などに比べますと、とても貧弱なささやかなものであり、本当に草庵というような言葉がふさわしいような、そんな住居の中へ、比較にもならぬ大きな禅院の庭園や伽藍をコンデンスして容れてしまい、吸収してしまったのであります。

いわば茶道によって露地草庵風な禅が新しく建立されたのであります。」

（『茶道の哲学』日本の文化的使命と茶道）

昨年末に伊深に所用がある折に、岐阜市内の久松真一記念館（先生が晩年を過ごされた故郷岐阜長良のお宅）の存在を知りお訪ねし

御 法 衣 ・ 莊 嚴 具 調 達

臨濟宗各本山御用達

大 黒 屋

株式会社



神 田 法 衣 店

〒603-8207 京都市北区紫竹牛若町29番地2
電話 京都 (075) 493-3507番(代)
FAX (075) 493-5098番

た。現在は、久松家当主の久松定昭氏（真一先生の妹君の御孫）が館長をされていて、午前十時の約束で何うと玄関で迎えていただき、上がりの座敷には火鉢に炭がつがれて鉄瓶からは湯気が上がっていた。

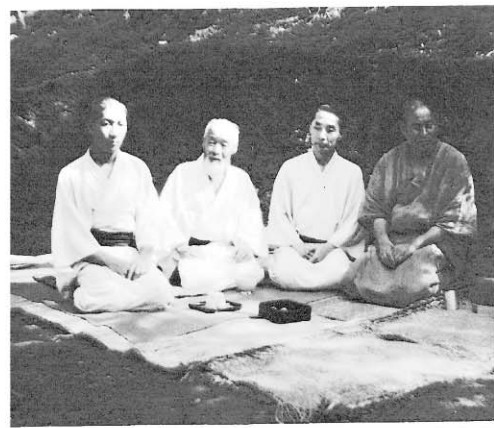
お心遣いに感謝しながら、身内の方からでなければお聞き出来ないようなお話もしていただいた。途中、地元のお菓子とお薄を出してくださり、昼頃まで長時間に渡り快くお話しをしていただいた。



久松定昭館長（左）と筆者

冒頭の藤吉慈海氏の文章にもあるように学生時代に下宿で釜を掛けられていたというから驚きである。岐阜のご実家のご両親（父君

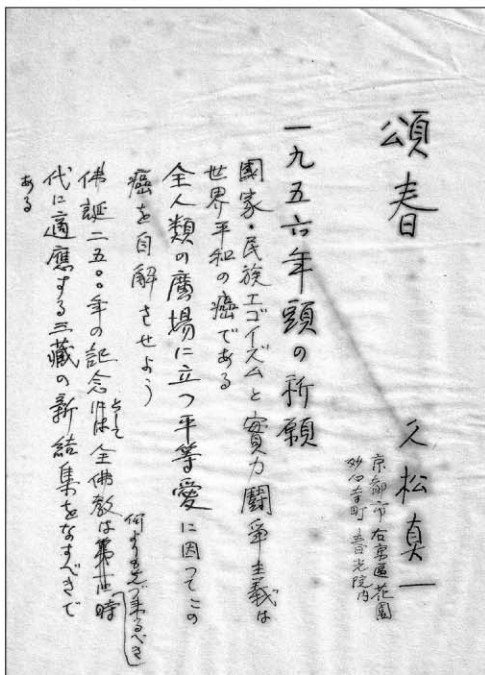
自宅裏山での野点（左から二人目が父君の八白庵、三人目が先生）



は地元の名士で号は八白庵）とも

茶の湯をされ、小さい頃から茶の湯が日常にある環境で成長されているので、先生からすれば自然なのであろう。ご自宅の裏山で家族・親類と野点をされている写真からそれをうかがい知ることが出来る。

先生は、どちらかの流儀の師匠



について稽古をされた形跡はないそう、日常の中で身につけられたようである。

最後に一九五六年の年賀状原稿（国家・民族のエゴイズムと実力闘争主義があらさきに台頭してきた現在への警鐘でもあり）と定昭館長が小さい頃から先生に暗唱しておきなさいと言われていたという「人類の誓い」をご紹介します。

年賀状の手書き原稿（仏教による世界平和を祈願されている。国家・民族のエゴが再び台頭してきた現在への警鐘ともとれる。）

禅の妙相

大本山妙心寺・臨済宗各御本山御用達

御袈裟法衣



莊嚴仏具調進司

後藤新助法衣仏具店

妙心寺門前

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表) 075-462-3915/FAX 075-462-3616
URL <http://www.rinzai.jp>

駐車場完備

「人類の誓い」

久松真一

わたくしたちは

よくおちついて本当の自己に

めざめ、

あわれみ深い

こころをもった人間となり、

各自の使命に従って

そのもちまえを生かし、

個人や社会の悩みと

そのみなもとを探り、

歴史の進むべき

ただしい方向をみきわめ、

人種国家貧富の別なく

みな同胞として

手をとりあい、

誓って

人類解放の悲願を

なにとげ、

真実にして

幸福なる世界を

建設しましょう。

「久松真二記念館」

要事前予約

〒五〇二一〇八二七

岐阜市長良福光二三八一二

電話／ファックス

〇五八一一三三一一五三七



久松真二記念館二次元コード



久松真二記念館入口

ご紹介

ひさまつ しんいち

久松 真一氏

(一八八九年～一九八〇年)

日本の哲学者・仏教学者。旧姓は大野。号は抱石庵。

一八八九年、岐阜県稲葉郡長良村(現・岐阜市)で生まれた。生家は浄土真宗門徒の農家で、幼年時代より真宗の僧侶になることを目指していたが、青年期に科学的知識に接し、従前の「中世的」信仰を棄て、理性の自律に基づく哲学を志した。第三高等学校を経て、一九二二年京都帝国大学文科大学哲学科に入学。西田幾多郎の哲学、鈴木大拙の禅学に影響を受け、東洋哲学、仏教、日本思想を研究。学問の対象として客観化できない「私」といふもの自体の存在」の問題に悩み、一九一五年、西田の薦めによって妙心寺の池上湘山老師に参禅。直後の臘八大接心において「無相の自己」に目覚めた。

一九一九年に臨済宗大学(現・花園大学)教授。一九二九年、龍谷大学教授を兼ねる。一九三七年京都帝国大学文学部助教授に転じる。一九三九年に主著『東洋的無』を刊行。一九四一年、京都大学心茶会設立。一九四四年、京都帝国大学内に座禅と論究の学問と修行の一致(学行一如)を目指す学道道場、FAS協会を設立し、代表を務めた。終戦直後の一九四六年、京都大学教授に就任。一九五三年に京都大学を定年退職後、京都市立美術大学教授を務めた。

HP ウィキペディア 参照

寺院仏像仏具 製造 修理 販売



有限会社 天真堂中央社寺工藝社

〒 451-0031 愛知県名古屋市区城西1丁目10-21
TEL 052-532-0607
FAX 052-532-0608

http://tensindo.co.jp
E-mail info@tensindo.co.jp

ただ生きる

薪流会 会員

正法寺住職 栗原正雄

薪流会会員の皆さまにおかれましては日々布教教化にご尽力のことと大慶に存じ上げます。

さて、未曾有のコロナ感染がやっと収束したかと思ったら、世界の各地では紛争が絶えず不穏な社会情勢が続いております。

また、国内では自然災害が頻繁に起こり多くの方々が被災され厳しい生活を余儀なくされていきます。皆さまに平穏な日常が戻りますよう心から願うばかりです。

さて、真宗大谷派の僧侶で高名な仏教学者安田理深師(一九〇〇～一九八二)に「人生が行き詰まるのではない、自分の思いが行き詰まるのだ」という至言があります。

私たちは思い込みを持つことによって、逆に人生の歩みを困難なものにしていけないでしょうか。目の前に起こることをあるがま

まに受け入れることができれば良いのですが、それがなかなかできず思いが行き詰まってしまうのです。

安田理深師の自宅が火事にあつたときの逸話を本で知りました。隣家から延焼し、学者の命ともいふべき蔵書や研究資料がすべて焼けてしまいました。

計り知れないほどの大きなショックを受けたと思いますが、そのとき、師はこのように語ったそうです。

『焼かれた』でもない。『焼いた』でもない。ただ『焼けた』。そうすると事実を事実のまま受け入れていけるのではないかと。自も他も損なわんで済む。こんなことを今度の火事で学びましたと……。

火災を他人のせいにして他者を恨むのではなく、自分のせいにし

て自身を責めるのでもない。目の前に起こった事実を事実のまま受け止めることができれば、自分も他者も損なわれません。

しかし、そう簡単にはいきません。師も心の中で様々な葛藤があったと思います。だからこそ最後に「学びました」と言われたのです。

ところで、ある中学校で三年間かけてボランティア、奉仕行の実践をカリキュラムに組み入れたそうです。そして、近くの施設に手伝いに行くようになりました。

中学一年の女子生徒は、最初は手探りで車椅子を押していたそうです。だんだんと親しくなるにつれて自分の悩みなどを打ち明けるようになって、かえって身障者の青年に励まされました。そして三年が経過しました。

彼女は学校の報告会で発表しま

御法衣・莊嚴具・稚児貸衣裳

山田八郎法衣店

〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39-31
電話 (052) 241-1817 FAX (052) 241-1834

した。「私は可哀想だと思って押しているではありません。ただ、押しています」と……。

「ただ、押している」すばらしい表現です。なかなか出てくる言葉ではありません。

人に尽くすことが特別な慈悲行などではなく、生活のなかの当たり前の行為に育ったとき、慈悲が熟したというのでしょう。

ボランティア活動は単なる手助けではありません。他人の苦を自らの身体で感じ取り、共感し、分かち合うことです。若者だけでなく、壮年も老人も、それなりに社会の矛盾に関心を持ち、心をいため、身近なところから自分のできる範囲で慈悲の行いを行っていくことが大切です。

薪流会では、平成七年一月十七日早朝に発生した阪神淡路大震災でその甚大な被災状況を報道で知り、何かしなければ、僧侶として何ができるのかとの思いで、手探りで炊き出しなど救援活動をはじめました。

それを契機に会として社会貢献の活動を実践、平成二十三年三月十一日発生の東日本大震災や昨年一月一日発生の能登半島地震等々でボランティア活動を行なってきました。

また交通遺児支援のための托鉢行等、さまざまな慈悲行を通して、「ただ、行じる」ことの難しさと大切さを学んできました。

私たちは生きている限り、葛藤や不安が完全におさまることは難しいのかもしれない。

しかし、そうしたときこそ、目の今をあるがままに受け入れる心のチカラを持ちたいものです。かたよりも、こだわりも、とらわれも無く、いまを「ただ生きる」ことができればと願います。

その無心のチカラを得るため、仏教の教え、禅の教えにヒントを求め、謙虚に学びながら、薪流会員の皆さまとともに社会に貢献する僧侶たらんと日々精進したいと思えます。

プロフィール

栗原 正雄
くりはら しょうゆう



一九五六年(昭和三十一年)広島県福山市に生まれる。

京都花園大学社会福祉学科卒業後、名古屋市の臨済宗妙心寺派専門道場、徳源寺にて妙心寺派元管長松山萬密老師、嶺興嶽老師のもとで修行。

現在、広島県福山市鞆町の正法寺住職。妙心寺派布教師。

平成十二年四月一日より平成十五年三月三十一日まで大本山妙心寺の常任布教師、布教伝道室長を務める。

平成十七年五月二十六日より妙心寺派教学部長並び教化センター所長に就任、平成二十一年四月一日より洛西花園幼稚園園長を一年間兼任。

平成二十五年五月二十六日より妙心寺派宗務総長に二期八年就任。

令和三年十月一日より学校法人花園学園学園長に就任し現在に至る。



お葬式・家族葬は 公益社にお任せください



24時間受付

ブライツホール



0120-004-200

「生きねば なんね」



薪流会 会員

浄土宗西山禅林寺派
専修寺 副住職

岸野 亮 哉

●脳出血を発症した私

二〇一七年四月三日、私は脳出血を発症した。当時四二歳。予兆なく、出先で急に気分が悪くなり倒れた。一緒にいた友人が、冷静な声で誰かに救急車を呼ぶよう依頼していたことは覚えている。

「脳動静脈奇形の破裂」と診断された。高血圧やストレスが原因ではなく、先天性の脳血管疾患だ。生まれつき、脳の血管の一部が破れやすかったそうだ。

その疾患を抱えていることを知らなかった。もし、脳ドッグを受けていても、問題の血管は小さかったため、「見落とされたかもしれない」と当時の主治医に言われた。

現在、後遺症が二つある。高次脳機能障害と右側の視野欠損（「右同名半盲」）だ。

●二度の開頭手術を受けて

発症した日に一度目の開頭して血腫を取り除く手術を受けた。二度目に問題の血管を全摘出する手術を受けて、手術室に入ってから出てくるまで十数時間かかったと母親から聞かされた。「脳動静脈奇形の破裂」を再発することはない。

四月下旬、手術後の激しい頭痛はおさまった。数週間、ベッドで寝たままだったのが主な原因だと思いが、脚に力が入らなかった。しかし、トイレへ向かっている時、杖なしで自分の脚で歩けることに気がついた。「この先、何とかなる」と希望がわいた。

●高次脳機能障害になって

四月末、集中治療室から一般病棟へ移った時、麻痺や痺れもなかった。脳の運動野や感覚野に出血の

影響がなかったからだと言師に説明されている。一方で、リハビリの療法士による検査やリハビリが始まり、異変に気づいた。簡単な計算問題が解けず、自坊の住所が思い出せない。小学校で習う漢字が書けず、トイレでは動作の順番を間違える。何より恐ろしく感じたのは、今さっきの出来事を次の瞬間に忘れていたことだ。「高次脳機能障害」と診断された。

五月一二日、集中的にリハビリを受けるため、回復期病院へ転院した。障害名を覚えられたのは、転院して一カ月が経ってからだ。回復期病院には一八〇日間、入院した。毎日、理学療法や作業療法、言語聴覚療法を受けた。高次脳機能障害のリハビリが主だ。退院したのは十一月七日。計七ヶ月の入院生活だった。

現在の主治医によると、「高次脳機能障害とは、症状としては、脳梗塞や脳出血など、何らかの脳に傷をつける病気やケガの後で生じる後遺症のうち、単純な麻痺や、

感覚の障害を除いたものを全て指す」。そして、「高次脳機能障害の症状や程度は、損傷した脳部位や損傷程度で様々に異なる」という。私が出血した脳部位は左頭頂葉で、そこから左後頭葉などにかけて出血の影響がでた。

●視野にも後遺症が

もう一つの後遺症は右側の視野欠損だ。「右同名半盲」という。右目の失明ではない。脳出血が原因で両眼とも右側の視野が欠損した。正面を向いて、両手を「前にならえ」の姿勢をとった時、右手は視野（視界）に入らない。私は木魚を叩く時、右側に置き右手でバイを持つ。その時、視野（視界）に木魚は入らない。

衛藤誠二准教授（鹿児島大学）が毎日新聞で同名半盲について、「眼球そのものは正常でも、目の奥の網膜から脳の後頭葉にかけての視覚をつかさどる神経の通り道が、脳梗塞や脳出血などによって遮断されることで生じます」と述べて

いる。

私の場合は右同名半盲だが、左同名半盲の人もある。視力に問題はなく視野の障害だ。視野を改善させる薬やリハビリはないが、極端に悪化することもないようだ。「視覚障害」になり、私自身の安全と周囲の人に、私には視覚障害があることを理解してもらうため、外出時には白杖^{はくじょう}を手に使っている。

「白杖＝全盲の人が使う」と思っている人は多いが、正しくは、「白杖＝目の見えない人や見えにくい人が使う」だと思う。なお、聴覚障害者なども白杖を使うことが道路交通法第一四条に明記されている。右同名半盲になったので、退院後は車やバイク、自転車の運転をやめた。

●『当たり前』でなくなった

発症から八年が過ぎた。現在、高次脳機能障害の受診のため三カ月一度通院し、また、作業療法や言語聴覚療法のリハビリも受けている。自坊の法務を手伝ってい

るが、高次脳機能障害の症状に苦戦している。現在の主治医からは早い段階で、「うまくいけば、気にならない程度まで回復できるかもしれない」と言われた。また、「発症前にできたことは工夫をすればできる」とも告げられている。実感としては、発症前に比べて半分も回復していない。

発症前の記憶は思い出すことができるが、発症後の出来事はすぐに忘れてしまう。きっかけがあれば思い出すことができる。記憶そのものがなくなったのではなく、私の場合は記憶の取り出しが難しくなっているようだ。

数字も苦手だ。三ケタ以上のアラビア数字は理解が難しい。コンビニのレジで「735円」を支払うとして、「537円」や「375円」などと間違える。

東西南北や左右の概念は分かるが、正しく判断できない時が多い。地図を見ても理解が難しい。

言葉（言語）にも問題がある。軽い失語があると医師に言われた。用

いる言葉が思い浮かばなかったり、言い間違えたりする。読書も難しい。内容が頭に入っていないのだ。

記憶の問題を解決するには、「メモをとるように」と入院中、言語聴覚士に言われたが、現在も難しい。メモをとる瞬間、すでに忘れていくし、思い通り文字が書けないのだ。多くの僧侶にとって、墨字^{ぼくじ}で文字を書くことは必須だろう。発症前から、塔婆^{とうば}や経木^{きょうぎ}などを書くのは住職（＝私の父）の仕事だったが、文字の問題は何かしなくてはいけない。

読経や所作（作法）を失敗する時もある。「阿弥陀經^{あみだきょう}」を読み間違えることが多い。法事などで戒名を読む時は、事前に住職か母に紙に書いてもらう。フリガナも必要だ。経本や数珠、袈裟^{けさ}を忘れたり、在所であつても道に迷ったりするので、住職や母の確認が必要だ。

発症以前には意識せずとも当たり前前にできたことが、高次脳機能障害になり意識してもできなくなった。「当たり前」が当たり前で

なくなった。努力の問題ではない。

●障害を公言

退院後は、檀信徒をはじめ、寺院関係者、友人や知人など周囲の人たちには、高次脳機能障害と右同名半盲のことを公言し、理解を求めてきた。私の場合、外見からは障害があるようには見えず、会話もできる。だからこそ、誤解をされないため公言している。僧侶として最も大切なことは、挨拶や御礼を述べることだと思ってきた。高次脳機能障害になり、それらを忘れることがありうる。だが、お陰様で多くの人たちから理解を得られており、感謝している。

●発症を受け止められた理由

発症以来、「なぜ、私が脳出血になったのか？」とか「障害を負うなんて」などと思ったことは一度もない。その理由の一つは、手足に麻痺や痺れが残らなかったことがある。失語も軽い。歩行や食事、排泄などの日常動作は一人でできる。

しかし、他にも大きな理由がある。二〇一一年三月十一日に東日本大震災の発生した後、被災地へ通ってきたからだ。発症直前の二〇一七年三月時点で、岩手県陸前高田市や大船渡市を中心に被災地へ約七〇回通っていた。

訪問を繰り返す中で、被災した人たちの話を自分事として聞けていたようだ。

●被災地へ通って

東日本大震災の発生八日後、私は物資を車に積み込み、避難所になっている寺院へ友人と二人で届けた。被災地では多くの寺院が避難所になっていることをニュースで知ったので、車で行けそうな寺院を複数調べた。無事にたどり着けたのが、岩手県陸前高田市の慈恩寺さん（当時の御住職は古山敬光師）だった。臨済宗妙心寺派のお寺だ。震災前に私は岩手県へ行ったことはなく、御住職とも面識はなかった。

帰路、携帯電話の電波が届いた

地域から、薪流会の会員（お寺さん）へ電話して、現状を伝えた。私は大野博雅会長とも面識があったので、その後、何度も被災地へ薪流会の皆さんと御一緒した。内陸にある岩手県一関市に「薪流村」が開村され、そこを拠点に会員さんが活動なさった。

皆さんから学んだことは、僧侶の姿勢、特に実践することの大切さと物事の観方だ。

会員さんたちと岩手県へ車で向かった時のこと。サーブスエリアで休憩した時、真正面に大きな富士山が見えた。私は「きれいですね」と言ったが、次の瞬間、ある会員さん（お寺さん）は「ありがたいなあ」とおっしゃった。私は恥ずかしくなった。同じものを同じ場所から見えていたが、感じ方が異なったのだ。

薪流会の皆さんと被災地へ御一緒する過程で、大野会長の同級生で、岩手県一関市の茂林寺さん（臨済宗妙心寺派・田村純一住職）との御縁も得た。二〇一一年九月以

降は、「薪流村」の開村に伴い、私は現地へ行く時には茂林寺さんのお世話になってきた。車の預かりや宿泊を無料でしてくださった。私を支援することは、間接的に沿岸の被災した人を支援することになるという茂林寺さんのお考えだ。

私にはない観方をなさる方々と御縁ができたことは、発症後の私の大きな支えとなった。ありがたいことだ。

退院後、二〇一八年二月に岩手県へ行った。一人で行ったのだが、茂林寺さんは大変喜んでくださった。その後、コロナ禍前の二〇一九年十一月まで、茂林寺さんにお世話になり、八回、岩手県の沿岸部を訪問することができた。

●生きねばなんね

「生きねばなんね（＝生きなければならぬ）」。二〇一一年七月、岩手県陸前高田市の仮設住宅で、Aさん（当時六〇代の男性）が語った言葉だ。震災直後、火葬場も避難所になっており、Aさんがそこ

に避難している時に私は出会った。Aさんの妻と息子は津波で犠牲となった。県外に娘がいたが、やがてAさんは仮設住宅で一人暮らしを始めた。息子の遺体は早い段階で見つかったが、妻はなかなか見つからない。Aさんは、市内や周辺地域の遺体安置所へ妻を探してまわった。

たまたまだが、十月に私が仮設住宅を訪問した時、「おつかあが見つかったんだ」と言った。確認のために、親戚と一緒に、警察の窓口へ行くところだという。私も同席した。公共施設の一室で、男性警察官が説明を始めた。ある身元不明の女性遺体のDNA型とAさんの娘のそれを照合した結果、「親子関係に矛盾がみられない」という結果が出たという。震災の約一ヶ月後に発見されていたが、DNA型鑑定が必要な遺体が多く、結果が出るのに時間がかかった。その御遺体は火葬されて、遺骨は市内の普門寺さん（曹洞宗）に預けられていた。市内で発見されて、

身元不明のまま火葬された遺骨が納められた遺骨箱が、本堂に多数安置されていた。

●身元確認の作業に立ち合っ

警察官は、「(奥さんは) 髪の毛を染めてらっしゃいましたか?」や「パーマをかけてらっしゃいましたか?」などとAさんに確認した。

そして、「発見が四月ということもあり、写真を見てもわからない状況ですが、よろしいですか?」と言って、検視の時に撮影された数枚の写真を警察官は提示した。

「これじゃわかんねえな」とAさん。警察官は、その御遺体に着用していた衣類の写真も見せる。DNA型鑑定の結果を説明し、「データ上は、ほぼ間違いがないのかな、と思われます」と言った。

やりとりは続く。「(奥さんのかかりつけの) 歯医者さんは、どちらでしたか?」。しかし、かかりつけの歯科医院は天津波で流された。Aさんは「(妻は虫歯を) 治してい

たけど、入れ歯はなかった」と答えると、警察官は「どの辺を治していましたか?」と聞いた。「わかんねえなあ」と言ったAさんに対して、警察官は「(この御遺体も) 歯を治した痕があります。入れ歯はないですね」と説明した。

DNA型鑑定の結果や身体的特徴などを踏まえたうえで、Aさんは、その女性が妻だと受け入れた。警察官は言った。「それでは、○○さん(＝奥さんの名前)だということでお返しします」。その後、御遺骨の引き渡しについての説明が続いた。「ありがとうございました」と警察官に向かって深々とお辞儀をし、隣の部屋に安置されていた棺にも手を合わせた。

Aさんは、終始、取り乱すことがなかった。私は、その場で失礼したのだが、後日、Aさんは市役所の職員と共に普門寺さんへ御遺骨を引き取りに行ったという。

その後、しばらくして私が仮設住宅を訪問した時、Aさんは「残された者には役割があるんだ」と

話した。Aさんが避難所で生活していた時は避難者同士で助け合っていた。仮設住宅では、一人暮らしの高齢者たちの元を尋ねてまわり、住民との交流を深めてきた。菩提寺の行事に参加し、自身の健康管理にも気をつけていた。

当時、同じ仮設住宅で一人暮らしをする高齢の女性は、「いつもAさんが気にかけてくれている」とうれしそうに私に言った。

●発症後の私の支え

被災地へ通い、多くの人と交流する中で、「私の住む京都市は内陸にあるので津波が発生することはない。しかし、他の自然災害で自坊が全壊することはあり得る。もし、自分自身が被災したり、事故や病気で障害を負ったり、命の危機に直面したりした時、果たして、受け入れることができるだろうか?」と自問自答するようになっていた。

「生きねばなんね」の言葉は、現在に至るまで私の支えとなっていた。入院中のことだが、退院後は

自坊での生活は難しく、「一生、施設のようなところで過ごすのだ」と覚悟したこともある。

しかし、少なくとも、回復期病院へ転院してからは、私は一度も泣いたことはない。精神力が強いわけではない。発症前に知り合った人たちのおかげで、自然に脳出血や障害を受け止めることができた。

もし、被災地へ通っていないければ、今の状態(症状)でも、自身の障害を受け入れられなかったと思う。訪問を継続する中で、「心の準備」ができていたようだ。私は多くの人々との御縁によって、障害を受け止めることができ、乗り越えようとする力を得ることができた。ありがたいことだ。

最後になりましたが、私の発症以来、大野博雅会長をはじめ、薪流会の方々には大変、御心配をかけてきました。また、皆様から励ましていただきました。心より感謝申し上げます。

チャリス村からのお礼状

浜松市 薪流会 会員 グルン ビルバハド

日本でも大地震が起こったことを伝えました。チャリス村では、薪流会様がしてくれたことはできないけれど、神様に日本の皆さんが安心して暮らせるようシャーマンにお願いして祈禱をしました。

これからも皆様の幸せをお祈りいたします。

一月八日にもネパールでは小さな地震がありました。(チベットでは大地震でした。)ですが、村の暮らしはおかげ様で安泰です。薪流会様が立て直してくれた水道からは水が豊かに流れています。

村人も周辺の村の人も喉をうるおし、自身や洗濯物を洗い、料理



カトマンズに向かう村人が加護をもらいに水道へ

に使い、神様に捧げるためのお水も家畜にあげる水もこの水道からとります。この村を支えてくれます。

いただいたトタン屋根はまだそれぞれの家の屋根で活躍しており、だんだん元通りの家を完成させつつあります。

シエルトゥン村では、薪流会様が建ててくださった校舎が呼び水となり、日本の政府も初めて車道がない地域への支援として教室をいくつか建ててくれました。

今、この教室は一番下のクラスの子たち(日本でいう未就学児)と図書室と職員室を兼ねています。

今回、いただいたお金では、チャリス村の学校の生徒へノートとペンを主に購入いたしました。

学校にはホワイトボードはあるのですが、自給自足でお金を稼ぐ手段はほぼゼロです。そのため多くの家庭では、ノートやペンにさ

く余裕はありません。

その結果、授業は受けるものの、書く機会があまりなく、それでいて筆記試験は毎年行われるために上級の学校に行くチャンスが極端に少ないのが現状です。

ノートやペンをいただくことで実際に書くことができますし、自分自身のものをほとんど与えてもらえない子供たちにとってはとても貴重でありうれしい贈り物でもあるのです。

「いつかお礼をと思いますが、お顔を拝見したことがなく、言葉だけお伝えしてもらって心苦しい。心からの感謝をお伝えください。」とチャリス村の村長が申しております。

(実はいつもお礼に渡してくれと村でとれた豆やお酒を用意してくれているのですが、飛行機には持ち込めないために、給食用に使ってくれとお返ししています。)

ぜひ皆様をお迎えできたら、と心より願っています。誠にありがとうございました。

各 大 本 山 御 用 達

兵 法 店
老 舗

草木兵助法衣店

〒604-0024 京都市中京区衣棚通御池上る下妙覚寺町

TEL 221-0934 (代表)

京都 (075)

FAX 241-0773



श्री कन्यादेवी आधारभूत विद्यालय
SHREE KANYA DEVI BASIC SCHOOL

पत्र संख्या :
Ref No : २०८०/०८५
चालानी नं. १५
Dispatch No :



विद्यालयको कोड नं. ०३०-०८५-०००३

रुबीभ्याली गाउँपालिका ४ चालीम डाँडुङ
Ruby Valley Rural Municipality-4 Chalish, Dhading
स्थापित: २०४३/२०४५

जर्मन/Date ४ July 2025

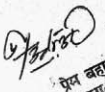
श्री /Shree : Shinryukai,

विषय / Subject : Thank you for stationary.

Thank you for providing stationary materials to our students in this **Shree Kanya Devi Basic School Chalish**. We would like to express our happiness when you helped stationary materials. It is really helping and improving Education for our students.

So, we would like to thank you for your big hand and keep loving us.

Principal and School Family


प्रेम बहादुर विक.
प्रधानाध्यापक



シュリーカニャデビ小学校

参照番号 ルビーバレー地方自治体-4 チャリス ダーディン

薪流会様

項目 文具贈呈の御礼

シュリーカニャデビ小学校の生徒に文具等を贈呈していただき、誠にありがとうございます。

文具等を贈呈していただくことにより、私たちを手助けして下さったことをとてもうれしく思います。

これらは生徒の教育の改善にとって非常に助けになりました。

いつも私たちを気にかけて、大きな助力を与えてくださって、心から感謝します。

校長と保護者
サイン



うれしい! と いただいたノートをギュッと抱きしめる生徒たち(シュリーカニャデビ小学校)

薪流会支援活動に参加して



方広寺派 庚申寺住職(浜松市)

仲 山 裕 紀

七月十九・二十日に石川県輪島市へ支援活動に参加させて頂きました。私は支援活動に初めて参加させて頂きました。

今回参加させて頂き印象に残っているのは、現状の深刻さです。

七月十九日に石川県七尾市にある日蓮宗 妙因寺様に宿泊させて頂きました。到着してまず目に入ってきたのは、傾いている山門、所々ブルーシートで覆われている境内です。本堂内や書院では壁が剥がれていたり床が沈んでいました。そして、妙因寺御住職・寺庭さんに被災当時のお話を聞かせて頂きました。

「普通に水が使えるまで三カ月」

「何かやっていないと、精神がどんどん落ちていってしまう」「また大地震がくるのではないかとと思う恐怖心」話を聞いていて胸が詰まる想いでした。

最後に「話を聞いてくれてありがとう」「この経験を今後に活かしていく為に、今後も連携していきたい」という言葉を頂戴致しました。

「傾聴」の実践と大切さを学ぶ事ができました。

妙因寺様の周りに十六カ寺ほどの寺院があるそうで、ほとんどが全壊したそうです。そんな状況でも宿泊をさせて頂き感謝の気持ちで一杯でした。

七月二十日、いよいよ支援活動場所である輪島市へ移動しました。移動している途中は常に揺れていたりと、道路が沈んでいたり、沈んだ中に車がそのまま放置されたままでした。

そして、輪島市に到着をして私は自分の目を疑いました。被災したままの瓦礫の山だったり、一階部分が崩れて車が下敷きのまま、六階建てビルがそのまま倒れていました。テレビで見る映像とは違い、被害の生々しさに衝撃を受けました。最近、被災地について、報道や



妙因寺本堂にて (妙因寺御住職、寺族様と)



令和六年七月二十日 輪島市内

ネットニュースなどでの情報が少なくなってきたので、自分の意識が薄くなっていました。

今回の支援活動は鰻弁当の炊き出しをしました。輪島市の社協の

方々に事前に声掛けの協力をして頂きました。十一時開始の前から長蛇の列で、五百個配り終える最後まで

列が切れる事ありませんでした。弁当を作ったり配膳で忙しく並

ばれた方とあまり話す事が出来ませんでした。が、時折「ありがとう」や「これからがんばるよ」という言葉を頂きました。

今回の支援活動に参加させて頂き、被災地の方々の前向きで一生懸命な姿をみて、勇気づけるどころか、逆に私自身が勇気を貰った気がします。そして、自分には出来る事がまだまだあるのではないかと思います。

今後も被災地支援について、間接的でも継続して行っていきたいと思っています。



令和 6 年 7 月 20 日 輪島市内・支援活動場所へ向かう途中

能登半島地震

薪流会活動報告

(当日の支援活動レジュメより)

『浜松うなぎで夏を
乗り切ろう！プロジェクト』

二〇二四年七月十八～二十日

能登半島大震災第三次支援活動

主催 臨済宗 薪流会

協賛 うなぎの井口(浜松市)

新緑の季節も過ぎ、被災地にも夏が訪れようとしています。例年とは異なる夏を乗り切つて頂くために私たちは気持ちばかりの夏バテ予防のお食事を準備させて頂こうと計画を立てています。万葉の昔より夏バテにはうなぎが定番でした。

ぜひ夏バテ予防のうなぎを召し上がって頂き、ささやかな心と体の栄養補給となれば幸甚と存じます。

『石麻呂に 吾物申す 夏瘦せに
よしと云ふ物ぞ うなぎ取り召せ』

万葉集 卷十六(大伴家持)

輪島市炊出し要項

責任者：総括責任者 大野博雅

現地責任者 藤田晃道

期 日：令和六年七月十九～

二十日(七月二十日昼食を施食)

支援場所：輪島市内於仮設住宅

支援内容：鰻重(鰻丼) 五百食

鰻さく 五百食

配布方法 仮設住宅に於いて調理・盛付・時刻を定め受け取りに来てもらう。配達も小数考慮する

日 程

●先発班

班長 会長・大野博雅 他二位

七月十八日 十三時

川辺町 大雄寺 集合 資材積込

十四時 出発

七尾市 泊

七月十九日 十二時 輪島市役所

支援窓口 ピースボートと調整

炊き出し 現場視察・設営計画を立てる

LP ガスボンベ 借入、ガソリンを満タンにして 後続班と合流 開浴・夕食を済ませる

妙圀寺(日蓮宗) 泊
(注) 妙圀寺さんも今回の地震被災寺院です。

七尾市小島町 166 甲

●美濃加茂班

班長 延命寺 則竹尚史 他三位

七月十九日 十三時

美濃加茂市 西禅寺 集合

資材積込み

十四時 美濃加茂市 出発

七尾市着 ガソリンを満タンにして 先発班と合流

●浜松班

班長 托鉢部長 藤田晃道 他四位

七月十九日 十時

甘露寺 集合 資材積込

甘露寺 出発

七尾市着 ガソリンを満タンに

して先発班と合流

●炊出し当日

七月二十日 六時 起床 洗面

を済ませ出発

朝食を済ませて、輪島市に向かう。

七時四十五分 支援活動現場

着 小休息

八時 ヤマト運輸 輪島営業所

に鰻を引取る

輪島河井町一・二〇五

☎〇五七〇・二〇〇・〇〇〇

(美濃加茂班 一位)

八時 炊出し設営 ガス設営

湯窯をいち早く点火する



厳守事項

切り傷、出血など厳重注意。
少々の出血でも、責任者に申し出て調理よりはずれること。

九時 炊飯準備

九時三十分 炊飯開始 順次

五百食

二合で三人分 (三斗四升)

十時三十分

鰻重・鰻さくの調理始める

鰻重(鰻丼)に食品衛生シールを貼る

十一時三十分～十二時三十分

鰻重・鰻さく 配布

十三時 ボランティア各自食事

(鰻重) 小休息

十三時三十分 徹収作業開始



残食 他全て持ち帰る

十四時十五分 『浜松うなぎで夏を乗り切ろう！プロジェクト』終了

十五時十五分 七尾市 和倉

温泉 総湯入浴 反省会

十六時三十分 各班帰路



2024 年 7 月 20 日 炊出し支援活動 調理・配布 於：輪島市内

7月20日 支援活動輪島炊出し必要リストより

2024/7/1現在

2-1

2-2

準備品目	備 考 ・ 【借用先】	担当	車両	確認
鰻 蒲焼レトルト冷凍食品	大 270 本(浜北 井口)	大雄	現地届	発注済
た れ	1.8L 6本(浜北 井口)	大雄	現地届	発注済
山 椒	520ヶ (浜北 井口)	大雄	現地届	発注済
鰻 重 箱	600 ヶ	甘露	浜松班	確保済
箸	600 膳	甘露	浜松班	確保済
鰻ザクのカップ 蓋付	600 ヶ	大雄	先駆班	購入済
LPガス 20k 3本	20k 3本【輪島市山上ガス】	大雄	先駆班	発注済
輪島市山岸町口 51 0768 22 0368				
炊飯器 20.5 升	4.5 升 【大雄】	大雄	先駆班	確保済
	3 升・3 升【大仙】	大仙	美濃加茂班	確保済
	5 升 【延命】	延命	美濃加茂班	確保済
	3 升・3 升【山上ガス】	大雄	現地調達	発注済
テント 1.5×2	2 張 【のうひ葬祭】	大雄	先駆班	確保済
テント 1.5×1.5	1 張 【大雄】	大雄	先駆班	確保済
配膳机 6 尺 足長	4 脚 【のうひ葬祭】	大雄	先駆班	確保済
寸胴 大	□70 cm 深 100 cm 1ヶ【大雄】	大雄	先駆班	確保済
寸胴 中	□35 cm 深 65 cm 1ヶ【西禅】	西禅	美濃加茂班	確保済
寸胴 中	□35 cm 深 65 c 1ヶ【大雄】	大雄	先駆班	確保済
火口 大	大 × 2 【大仙】	大仙	美濃加茂班	確保済
火口 大	大 × 1 【延命】	延命	美濃加茂班	確保済
白 米	60kg (4 斗)	甘露	浜松班	確保済
きゅうり 130 本	約 1 本 4 人	大仙	美濃加茂班	依頼済
日 本 酒	1 升	大雄	先駆班	確保済
水 炊飯用	100ℓ (2ℓ・50 本)	西禅	美濃加茂班	確保済
水 調理・洗い用	100ℓ (2ℓ・50 本)	西禅	美濃加茂班	確保済
ざる 大	2ヶ 【大仙】	大仙	美濃加茂班	確保済
ステンレスざる 中	2ヶ 【大雄】	大雄	先駆班	確保済
調理手袋	大・100 枚	大雄	先駆班	依頼済
ボ ー ル	中 2ヶ 【西禅】	西禅	美濃加茂班	確保済
ボ ー ル	中 2ヶ 【大仙】	大仙	美濃加茂班	確保済
スライサー(鰻ザク用)	3 ヶ	大雄	先駆班	確保済
ま な 板	簡易3ヶ	大雄	先駆班	確保済
包 丁	簡易4ヶ	大雄	先駆班	確保済
菜 箸	2 ぜ ん	大雄	先駆班	確保済
食 塩	5 0 0 g	大雄	先駆班	確保済
味ぽん(鰻ザク用)特大	5 本	大雄	先駆班	確保済
砂糖(鰻ザク用) 5kg	5 kg	大雄	先駆班	確保済
ダンボール箱大(ゴミ箱)	適 量	大雄	先駆班	確保済
ダンボール箱中(うな重)	適 量	大雄	先駆班	確保済
レジ袋 (うな重)	大・100 枚 ・中 500 枚	大雄	先駆班	確保済
ゴミ袋 大	適量(川辺町可燃ごみ袋)	大雄	先駆班	確保済
紙コップ	300 ヶ	大雄	先駆班	確保済
鰻用柄杓	3 ヶ	甘露	先駆班	確保済
柄 杓	大1 中2	大雄	先駆班	確保済
ガスホース・三又(3)	ガスホース15m 三又3ヶ	大雄	先駆班	確保済
ガムテープ	2 本	大雄	先駆班	確保済
養生テープ	2 本	大雄	先駆班	確保済

準備品目	備 考 ・ 【借用先】	担当	車両	確認
ふきん (台巾)	20 枚 【大雄】	大雄	先駆班	確保済
ラ ッ プ	1 本	大雄	先駆班	確保済
バ ケ ツ	大1ヶ 中1ヶ 小1ヶ	大雄	先駆班	確保済
キッチン洗剤	1 本	大雄	先駆班	確保済
キッチンペーパー	適 量	大雄	先駆班	確保済
た わ し	大1ヶ 中1ヶ	大雄	先駆班	確保済
スポンジ	洗 い 用	大雄	先駆班	確保済
調理ハサミ	3 ヶ	大雄	先駆班	確保済
ト ン グ	中 2ヶ	大雄	先駆班	確保済
火 箸	大 2ヶ	大雄	先駆班	確保済
バット 大	3ヶ 【大仙】	大仙	美濃加茂班	確保済
お茶等飲み物の保冷庫具	大3ヶ【甘露・西禅・大雄】	各自	各 班	確保済
調理・シール	520枚	西禅	美濃加茂班	確保済
パイプ椅子	7 脚 【大仙】	大仙	美濃加茂班	確保済
切 箱	7ヶ 【大仙】	大仙	美濃加茂班	確保済
お 櫃	大 2ヶ	大仙	美濃加茂班	購入済
全	大1ヶ 【大雄】	大雄	先駆班	確保済
炊 飯 布	大3枚・中3枚	大雄	先駆班	確保済
計量樹(米用)	1 升枴 5合樹【西禅】	西禅	美濃加茂班	確保済
計量カップ	1ヶ	大雄	先駆班	確保済
火口 風よけ	8 枚 (火口用)	大雄	先駆班	確保済
ブロック	24 ヶ 【西禅購入】	西禅	美濃加茂班	確保済
コンパネ	900×1800×15 mm 6枚	大雄	先駆班	確保済
インパクトドライバー	1 台 【大雄】	大雄	先駆班	確保済
木 ネ ジ	50 mm・50 本	大雄	先駆班	確保済
木 板	50×200×15 mm・20 枚	大雄	先駆班	確保済
ゴムホース	50m×2 【大雄】	大雄	先駆班	確保済
針 金	一巻 50m	大雄	先駆班	確保済
薪流会登り・竿	一 式	甘露	浜松班	確保済
氷	現 地	甘露	現地調達	
お茶等 飲み物	現 地	甘露	現地調達	
救急 薬	適 量	大雄	先駆班	
箸	適量 【大雄】	大雄	先駆班	
塵取り	1 箱	大雄	先駆班	
カセットコンロ	1ヶ 【大雄】	大雄	先駆班	
カセットガスボンベ	6 本	大雄	先駆班	
ライター	チャカマン	大雄	先駆班	

車 両	トヨタレンタカー(ハイエース)	大雄	先駆班	確保済
	トヨタレンタカー(ハイエース)	大雄	美濃加茂班	確保済
	レンタカー	甘露	浜松班	確保済

夜 具	各自持参			
洗面用具	各自持参			
マ ス ク	各自持参			
頭巾(タオル又は手ぬぐい可)	各自持参			
ボランティア保険	各自加入			

炊出しに必要な物資をリストを元に、準備致しました。

令和六年度 能登義援金

(順不同・敬称略)

梅林寺	福岡県久留米市	一〇〇、〇〇〇	林貞寺	愛知県名古屋市中	一〇、〇〇〇
大法寺	愛媛県八幡浜市	五〇、〇〇〇	宗清寺	埼玉県児玉郡	一〇、〇〇〇
平林寺	埼玉県新座市	三〇、〇〇〇	蓮光寺	静岡県沼津市	一〇、〇〇〇
臨濟寺	静岡県静岡市	二〇、〇〇〇	雲巖寺	栃木県大田原市	一〇、〇〇〇
禪台寺	岐阜県可児市	五〇、〇〇〇	永昌寺	岐阜県山県市	一〇、〇〇〇
勝光寺	埼玉県所沢市	五〇、〇〇〇	太清寺	愛知県春日井市	一〇、〇〇〇
雲龍寺	岐阜県可児市	五〇、〇〇〇	長松寺	愛知県名古屋市中	一〇、〇〇〇
大雄寺檀徒会	岐阜県加茂郡	五〇、〇〇〇	圓光寺	東京都台東区	一〇、〇〇〇
藤井洋子	広島県福山市	五〇、〇〇〇	善勝寺	埼玉県鴻巣市	一〇、〇〇〇
正法寺	広島県福山市	三〇、〇〇〇	秘在寺	静岡県静岡市	一〇、〇〇〇
太原寺	岐阜県山県市	三〇、〇〇〇	海福寺	愛知県名古屋市中	一〇、〇〇〇
養徳院	京都府京都市	二〇、〇〇〇	大覺寺	岐阜県下呂市	一〇、〇〇〇
雄香寺	長崎県平戸市	二〇、〇〇〇	森田隆三	京都市上京区	一〇、〇〇〇
圓通寺	愛知県一宮市	二〇、〇〇〇	匿名		一〇、〇〇〇
徳岩寺	愛知県北名古屋市	一〇、〇〇〇	宗清寺	埼玉県児玉郡	九六〇〇
法雲寺	大分県大分市	一〇、〇〇〇	福高寺	愛媛県八幡浜市	五〇、〇〇〇
福寿院	京都府京都市	一〇、〇〇〇	寶満寺	和歌山県田辺市	五〇、〇〇〇
大池寺	滋賀県甲賀市	一〇、〇〇〇	永昌寺	岐阜県中津川市	五〇、〇〇〇
徳蓮院	三重県名張市	一〇、〇〇〇	瑞應寺	岐阜県羽島郡	五〇、〇〇〇
光正寺	静岡県浜松市	一〇、〇〇〇	圓通寺	静岡県浜松市	五〇、〇〇〇
寶珠寺	静岡県掛川市	一〇、〇〇〇	龍興寺	愛知県豊田市	五〇、〇〇〇
多福寺	埼玉県入間郡	一〇、〇〇〇	崇福寺	岐阜県岐阜市	五〇、〇〇〇
大聖寺	静岡県牧之原市	一〇、〇〇〇	松源寺	岐阜県中津川市	五〇、〇〇〇
菊水寺	愛知県名古屋市中	一〇、〇〇〇	福昌寺	愛知県一宮市	五〇、〇〇〇
大龍寺	岐阜県岐阜市	一〇、〇〇〇	宗榮寺	愛知県犬山市	五〇、〇〇〇
東雲寺	愛知県名古屋市中	一〇、〇〇〇	光嚴寺	栃木県大田原市	五〇、〇〇〇
			無染寺	岐阜県各務原市	五〇、〇〇〇
			大儀寺	岐阜県可児市	五〇、〇〇〇
			妙雲寺	栃木県那須塩原市	五〇、〇〇〇
			定法院	岐阜県山県市	五〇、〇〇〇
			高源寺	茨城県取手市	五〇、〇〇〇
			天澤院	岐阜県岐阜市	五〇、〇〇〇
			西藏寺	静岡県静岡市	五〇、〇〇〇

能登半島地震支援活動会計報告

収入 1,675,479 円
支出 1,675,479 円
残金 0 円

収入

義援金送金分	1,009,600
参加者カンパ	45,000
活動基金より	600,000
一般会計より	20,879
合 計	1,675,479

支出

4月	
交通費	58,128
食費宿泊費	47,882
支援資材	56,493
義援金(妙因寺・宝幢寺)	200,000
小計	362,503
7月鰻井炊き出し	
交通費	138,916
食費宿泊費	229,497
支援資材	191,485
支援食料	628,085
事務通信費	24,993
小計	1,212,976
岸野氏活動費	100,000
小計	100,000
合 計	1,675,479

龍泉寺	静岡県駿東郡	五〇、〇〇〇	觀音寺	岐阜県美濃加茂市	五〇、〇〇〇
南林寺	岐阜県中津川市	五〇、〇〇〇	慶長院	岐阜県美濃市	五〇、〇〇〇
瑞雲院	静岡県静岡市	五〇、〇〇〇	心宝寺	静岡県浜松市	五〇、〇〇〇
神宮寺	静岡県掛川市	五〇、〇〇〇	普救寺	岐阜県山県市	五〇、〇〇〇
橋本葬祭	岐阜県可児市	五〇、〇〇〇	奥村貞雄	岐阜県多治見市	五〇、〇〇〇
深川友博	広島県福山市	五〇、〇〇〇	觀音寺	愛知県一宮市	三〇、〇〇〇
隣松寺	岐阜県不破郡	三〇、〇〇〇	西福寺	岐阜県可児市	三〇、〇〇〇

右記の浄財を支援させていただきました。
した事を報告申し上げます。

金福寺 岐阜県関市 三〇、〇〇〇
永福寺 静岡県浜松市 三〇、〇〇〇
眞福寺 愛知県小牧市 三〇、〇〇〇
少林寺 静岡県静岡市 三〇、〇〇〇
慈雲寺 岐阜県本巣市 二〇、〇〇〇
長福寺 岐阜県揖斐郡 一〇、〇〇〇
井戸銑一 岐阜県加茂郡 一〇、〇〇〇

令和六年度 托鉢義援金

(順不同・敬称略)

梅林寺 五万円 東海大玄 福岡県久留米市(妙)
 禅台寺 三万円 田中義峰 岐阜県可児市(妙)
 養徳院 一万二千元 横江桃園 京都府京都市(妙)

一万円

雲龍寺 保子令謙 岐阜県可児市(妙)
 興禅寺 石川元信 栃木県宇都宮市(妙)
 菊水寺 渡邊文光 愛知県名古屋(妙)
 見性寺 松山正宗 静岡県磐田市(妙)
 天福寺 鬼頭孝道 岐阜県土岐市(妙)
 蓮光寺 佐久間清人 静岡県沼津市(妙)
 金嶺寺 石井康州 愛知県一宮市(妙)
 長昌寺 渡辺尚博 大分県佐伯市(妙)
 大龍寺 寺町宗峰 岐阜県岐阜市(妙)
 太清寺 田口宗純 愛知県春日井市(妙)
 善勝寺 明見弘道 埼玉県鴻巣市(妙)
 大聖寺 浅野正道 静岡県牧之原市
 徳蓮院 井村道弘 三重県名張市(曹洞宗)
 瑞応寺 倉内宗寛 兵庫県明石市(妙)
 大蔵院 櫻木徳宗 兵庫県明石市(南)
 福壽院 荻須智善 京都府京都市(妙)

五千元

法雲寺 竺 泰道 大分県大分市(妙)
 宝満寺 三谷方外 和歌山県田辺市(妙)
 宗榮寺 日坂宜祥 愛知県大山市(妙)
 長永寺 永田明徳 静岡県御前崎市(妙)
 明鏡寺 酒井宗博 岐阜県加茂郡(妙)

大安寺 林 成道 岐阜県各務ヶ原市(妙)
 石雲寺 伊藤法徹 愛知県新城市(方)
 二福寺 長江啓保 岐阜県多治見市(南)
 妙雲寺 加藤明徹 栃木県那須塩原市(妙)
 高源寺 菅井一磨 茨城県取手市(妙)
 円通寺 水越浄円 千葉県佐倉市(妙)
 大池寺 清水寿晴 滋賀県甲賀市(妙)
 天隣寺 倉内大晋 兵庫県美方郡(天)
 居士 宮田裕司 茨城県水戸市

三千元

隣松寺 徳山宗達 岐阜県不破郡(妙)
 龍月院 青山宜宥 岐阜県美濃加茂市(妙)
 大儀寺 荻谷典昌 岐阜県可児市(妙)
 西福寺 大雅清光 岐阜県可児市(妙)
 常善寺 武田董裕 岐阜県加茂郡(妙)

二千元

長水寺 山本盛徳 岐阜県関市(妙)
 普救寺 伊藤治範 岐阜県山県市(妙)

一千元

長福寺 國枝義昌 岐阜県掛斐郡(妙)

左記に浄財を支援させていただきま
 した事を報告申し上げます。

福岡県交通遺児を支える会

金 十五万円

ネパールシェリーカニヤアヒ小学校児童
 金 十万円 相当の文具

托鉢報告

令和七年三月六日午前十時より、総裁
 の梅林寺(久留米市)を会所におかりし
 て久留米市中心部付近を托鉢、正午帰山
 して解散。当日は役員他五名が参加しま
 した。

今回は梅林僧堂の雲水さんに引手をお
 願いしましたが、いつも行っている連
 鉢と違い箇所のお宅にお伺いする軒鉢
 形式でしたので、なかなかありませんで
 したが、貴重な経験をさせていただきま
 した。

また、この度の托鉢に対し各方面から
 多大なるご援助、ご協力を頂き厚く御礼
 申し上げます。



於 久留米市内

令和 6 年度 会計決算報告

自 令和6年1月1日～至 令和6年12月31日

1. 一般会計

収入 2,281,671 円
支出 2,281,671 円
残高 0 円

収 入

(単位・円)

項 目	予 算	決 算	比 較	備 考	前年度決算額
賛 助 金	250,000	240,000	▲10,000	正副総裁・顧問・参与	130,000
会 費	250,000	170,000	▲80,000	役員・会員	205,000
事 業 収 入	100,000	85,000	▲15,000	色紙収益	90,000
広 告 収 入	300,000	240,000	▲60,000	会報広告掲載料	250,000
雑 収 入	10,000	100,234	90,234	全日仏活動費・利息	300,005
活 動 基 金	0	700,000	700,000		0
繰 越 金	746,437	746,437	0		831,303
合 計	1,656,437	2,281,671	115,005		1,856,159

支 出

(単位・円)

項 目	予 算	決 算	比 較	備 考	前年度決算額
事 務 費	150,000	227,309	77,309	事務用品 他	115,186
通 信 費	150,000	202,805	52,805	郵送料・宅配便 他	132,259
会 議 費	150,000	250,872	100,872	会所費 他	239,122
編 集 部	500,000	399,370	▲100,630	会報編集・発行	341,806
托 鉢 部	100,000	150,000	50,000	托鉢	61,598
文 化 部	0	0	0	研修会	189,900
慶 弔 費	20,000	60,000	40,000	岬雲軒	30,000
交 際 費	10,000	0	▲10,000		0
活 動 費	0	620,879	620,879		0
繰 越 金	576,437	370,436	▲206,001	次年度へ繰越	746,437
合 計	1,741,303	2,281,671	625,234		1,856,308

2. 活動基金

2,230,000 円

(単位:円)

	収 入	支 出	残 高
前年度繰越金	2,930,000	0	2,930,000
一 般 会 計 へ		700,000	2,230,000
合 計	2,930,000	700,000	2,230,000

会 計 監 査 報 告

令和 6 年 1 月 1 日より令和 6 年 12 月 31 日の会計について、帳簿等証拠書類を照合致しましたところ、厳正且つ正確に処理されていますことを、認めましたのでここに報告申し上げます。

令和 7 年 1 月 15 日

監事 戸 崎 知 則



総 会 報 告

期日 令和七年三月六日

於 二日市温泉 大丸別荘

薪流会では三月六日総会に先立ち、同日午前八時半より梅林僧堂を会所に交通遺児等支援托鉢（令和六年事業）を行いました。

引き続き、午後五時より大丸別荘に於いて総会を開催いたしました。

能登半島地震犠牲者追悼を黙念総裁悠江軒老大師御垂訓、令和六年事業報告・同年決算報告並びに令和七年事業計画案・同年予算案を承認可決いたしました。

総会を終えて懇親会を開催。開宴に先立ち、総裁悠江軒老大師より言葉を頂きのち会食。和やかな内に懇親会を閉じました。

薪流会のホームページをぜひご覧ください。
<http://www.shinryukai.jp/>



午年(令和八年)

お正月用色紙御案内

悠江軒老大師揮毫色紙

(工芸印刷)

解説書・たとう紙付(折込み済)ご好評頂いております総裁猊下揮毫の正月用色紙を本年も発売致します。

一枚 三三〇円(送料別・税込
(但し一般は四三〇円))

※寺院の方は五〇枚単位にて御願致します。(但し在家の方は十枚単位より受付致します。)

申込み先 (左記の二方寺にて受け付けます)

大雄寺

〒五〇九一〇三〇一

岐阜県加茂郡川辺町下麻生一九九八

TEL 〇五七四一五三二二〇

FAX 〇五七四一五三六九三

徳生寺

〒四三四一〇〇四一

静岡県浜松市浜北区平口五四八

TEL 〇五三二五八七一〇〇五

FAX 〇五三二五八七一〇〇九

申込期日 令和七年十月十日 〆切
発 送 十一月末日頃



“こころの豊かさ、こころのやすらぎ”が私たちの商品です。



メモリアルアートの大野屋

創業 昭和14年

お墓のことなら
何でもご相談ください

通話無料

携帯からも OK

0120-02-8888

営業時間 / 9:00 から 17:00 (水曜定休)

本 社 ☎ 042-847-4111 〒190-0012 東京都立川市曙町 2-22-20 立川センタービル 9F

関西墓石事業部 ☎ 0120-30-7777 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-11-4 1108 大阪駅前第四ビル 11F

阪 神 エ リ ア ☎ 0120-70-0177 〒666-0033 兵庫県川西市栄町10-5 パルティ川西403

京滋・東海 エ リ ア ☎ 0120-31-7777 〒610-0121 京都府城陽市寺田大谷175-1 城陽霊苑内

阪 和 エ リ ア ☎ 0120-61-3388 〒585-0041 大阪府南河内郡千早赤阪村水分851

北 神 戸 エ リ ア ☎ 0120-35-8805 〒651-1263 兵庫県神戸市北区山田町西下字狼谷3-1

● ホームページ : <https://www.ohnoya.co.jp/>